

住吉の長屋

安藤忠雄

1976年

構造=RC造 地上二階建て

建築面積=33.70㎡

延べ床面積=64.72㎡

三軒続きの長屋の一軒をコンクリートの箱に置き換えるという極度に抽象化された住宅。開口3.3m、奥行14.1m。15坪に満たない細長い敷地は三等分され、中央の光庭を挟み東西に二階建てのボリュームが配される。壁と天井はコンクリートの打ち放しで、一階の床は玄昌石仕上げ。単純な構成ながら変化にとんだ住空間になり、中庭を介して季節の移ろいを伝える。町屋の持つ日本の伝統をいかにして現代住宅に取り込むか、その可能性を極度まで考え抜かれている。

